

米山奨学委員会  
委員

## 西谷 雅之

(大阪城南RC)

「この1年間勉学に励みロータリーの精神を理解するように努め、将来は米山奨学生としての経験を生かし自国と日本のために貢献してください」との岡部ガバナー・ノミニーのご挨拶を戴き、本年も4月12日午後4時半よりヴィアール大阪にて米山奨学生オリエンテーションが開催された。

その後村橋米山奨学委員会委員長より

- ①ロータリアンの寄付がこの事業の原資である
- ②今年度も34地区で約800人が米山奨学生となった
- ③第2660地区においては新規35名+去年より5名の40名が奨学生となっておりこれは全国で第4位である

などの説明があった。その中で、特に強調された事は米山記念奨学制度の目的についてであった。「米山記念奨学制度は貧困留学生を支援するためものではありません。日本と留学生たちの母国との架け橋になる人材を育てる民間外交である」

また、奨学生に対しては「ロータリアンやカウンセラーとは1年（最長2年）の付き合いであるがそれで終わらせてはならない。この1年から始まると考えてもらいたい。そしてロータリアンとの交流・ロータリーを通じての生活で何を持って帰れるのかを良く考えて過ごして欲しい」と述べられた。

その話を補完するかのように元奨学生で顕著な活躍を遂げる5名の学友会メンバーを紹介したビデオ『心つないで、世界へ〜ロータリー米山記念奨学会の学友たち』をカウンセラー・奨学生共に観賞し、武島副委員長よりパワーポイントを使った奨学生の心得・奨学生Q&Aなどの具体的な説明がなされた後、奨学生には誓約書への署名→提出という最後の手続きをとってもらい約1時間半で第1部を終了した。

隣室に移動し村橋委員長の乾杯でスタートした懇親会ではカウンセラー・奨学生共に緊張がほぐれたのか終始和やかな雰囲気であった。途中奨学生35名による自己紹介の時間を設けたが、その中で『ロータリーファミリー』や『大家族の一員』などの言葉も聞かれ第1部での説明を大多数の奨学生が理解してくれていると感じられた。

最後は磯田次年度委員長から「米山奨学生として誇りを持ち、この1年を有意義に過ごしてください」との閉会の挨拶で午後8時半に全予定を終了した。

